

開校記念日に寄せて（自慢話の土台とは）

岡山大学文学部一回生 坂本 愛実

令和三年度特別進学コースⅡ類卒業

岡山市立京山中学校出身

皆さんこんにちは。私は、岡山大学文学部一回生の坂本愛実と申します。

本日、明誠学院高等学校の開校記念日を迎えることができたことを嬉しく思います。また、私にこのような機会を与えて下さったことに、感謝いたします。

さて、今日は話を話そうか、二週間ちょっと前に先生から依頼を頂いたとき、かなり悩みました。皆さんは、ただでさえ眠たい六時間目に、よく知らない人の話を聞くわけですから、退屈してほしくはないなあと。今日の私の目標は、半分以上の人に起きてもらうことです。短いようで長い時間になるかと思いますが、少しでも、皆さんにとって有意義な時間になるお話ができればなと思っていますので、よろしくお願い致します。

では早速。今日私は、皆さんに二つのことをお伝えしたいと思います。「自分で納得のいく進路に進んで下さい。」「モチベーションになる何かを見つけて下さい。」この二点です。

そして、皆さんは、「なぜこの二つなのか」が気になっていると思います。私は、高校時代、と言ってもほんの一年前は高校2年生でしたが、特進Ⅱ類に所属していました。まあまあ良い成績を取り続け、生徒会長としてまあまあ活躍したと、自分で思っています。「自慢話が急に始まったぞ。」と思いましたがよね？ですが、私に今日ここで、このちょっと鼻につく自慢話ができるのは、「自分で納得のいく進路に進む」・「モチベーションになる何かを見つける」という二つを、高校時代にできていたからだと思っています。

私が「岡山大学に行こう！」と決めたのは中学三年生です。理由は自分でもよく分かりませんでした。固く決意しました。勉強は嫌いなタイプでしたが、目標のために、明誠学院に進学し、（ちなみに、明誠学院にも自分で望んで入りました。先生方の授業の面白さに魅了され、ここでなら勉強を頑張れると思ったからです。）勉強も生徒会活動も、少しでも入試で有利になるように頑張りました。授業ノートを何回も見直したり、先生にたくさん質問したり、朝に勉強してみたり。自分に合う勉強方法が見つかるまで、試行錯誤を繰り返しました。その結果、まあまあ良い成績を、三年間取り続けることができました。残念ながら、私は皆さんに、「これが正解だ！」という勉強方法を教えることはできません。最終的に信用でき

るのは、自分がこれまでしてきた努力だと、私自身の経験から思っているからです。もちろん、SNSやメディアで知った方法が間違っているわけではないので、試す価値は十分にありますし、試すべきです。重要なのは、それらが全てではないということです。希望の進路に到達するには、自分は何をどう改善すべきなのか、考えてみてください。そして、そうまでして到達したい進路を見つけてください。勉強に対するモチベーションが少しは上がると思います。事実、今の私にとって、納得のいく進路先での経験はとても楽しく、充実したものになっています。

では、なぜ私は三年間も、毎日午後五時までである授業と毎月のようにある心えぐられる模試に耐えてこられたと思いますか？「『岡山大学に行くという目標があったからだ』って、ついさっき言ったじゃん？」はい、言いました。ですが私はそんなにできた子ではないので、それだけでは頑張れません。ここで思い出していただきたいのは、「モチベーションになる何かを見つける」ことです。高校生になって、初めて岡山大学に行きたい理由が見つかりました。それが、「大好きなミュージカルを日本中に広めて、全国どこでも観劇できるようにしたい。」という将来の大きな目標のための土台作りです。人間が生み出したものなら何でも研究対象になる岡山大学の文学部なら、作り手も受け手も人間であるミュージカルに携わるための力を身に付けられると考えたのです。『自分が大好きなものをご褒美として設定して、そのために少しずつ頑張る。』これが一番効果的なやる気アップの方法ではないでしょうか。好きなものへの執着と探究心は、自分を動かす良い火薬で、それに向けた努力は良い起爆装置です。太い軸となるものを持っている人は強い。私はそう思っています。

長くなりましたね。もう終わります。どうでしょうか、あなたの隣の人が今起きてくれていることを願います。

繰り返しますが、覚えていてほしいのは、「自分で納得のいく進路に進んで下さい。」「モチベーションになる何かを見つけて下さい。」この二点です。あとは忘れていただいて構いません。そうすれば、私のように、ちよつと鼻につく自慢話ができるとお約束します。

皆さんの貴重な時間をお借りしてお話しさせていただけたこと、とても嬉しかったです。最後になりましたが、明誠学院高等学校の皆さんがより楽しい日々を送れることを、心から願っています。

ご清聴ありがとうございました。